

営農情報

第16号 平成25年9月6日



「あまおう」9月の管理

南筑後普及指導センター
福岡大城農業協同組合

◇ 気温が高く推移しています。

株冷：入庫後の庫内温度を必ず確認しましょう。

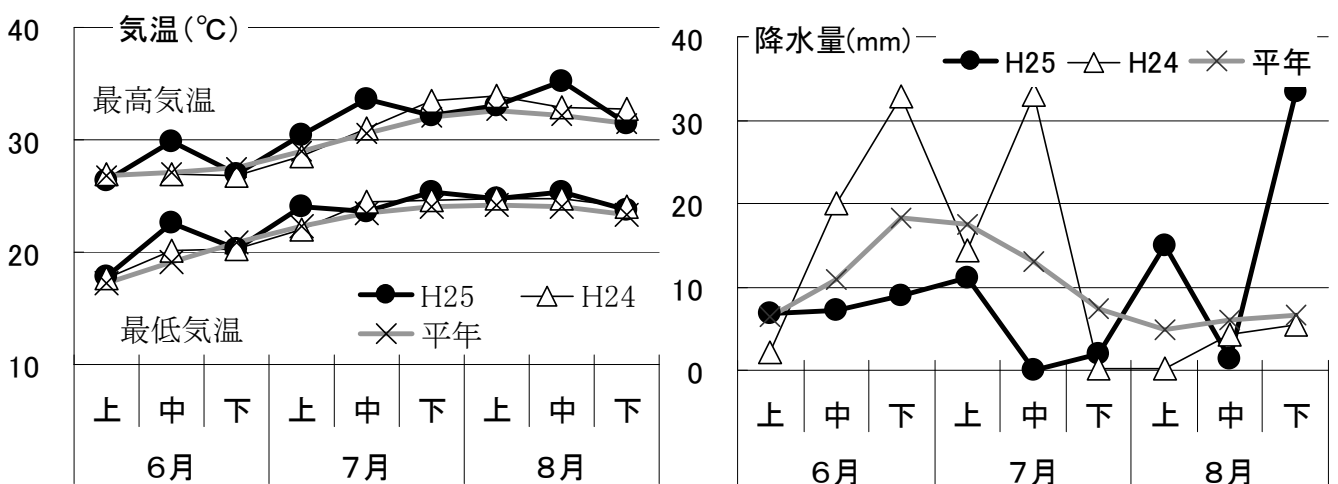
夜冷：日中高温（35℃以上）時には、寒冷紗被覆を行いましょう。

普通ポット：寒冷紗被覆を行いましょう。

今年の苗は、昨年より根傷みしているほ場が少なく、全体的に生育は順調です。しかし、梅雨明け以降、高温・乾燥傾向で推移していたため、一部ほ場で、かん水ムラ等による根傷みや、肥料の切れすぎによる生育の停滞が見られます。

気象庁では、9月も気温が高いと予想しています。花芽分化のバラツキや遅れが懸念されますので、普通ポットは、肥料の切れすぎに注意するとともに、花芽分化を促すために、可能なほ場では寒冷紗等を被覆して気温を下げる対策を実施して下さい。また、夜冷においても、日中高温（35℃以上）時には寒冷紗被覆等の対策が必要です。

病害虫では、8月上旬以降から「炭そ病」及び「疫病」がやや多くなっており、「ハダニ」や「アブラムシ」も多い状態が続いています。病害虫を本ぼに持ち込まないように、発病株の早期発見・早期除去及び防除の徹底に努めて下さい。



〈 育苗期の最高・最低気温と日照時間(アメダス大牟田より) 〉

育苗管理(普通ポット)

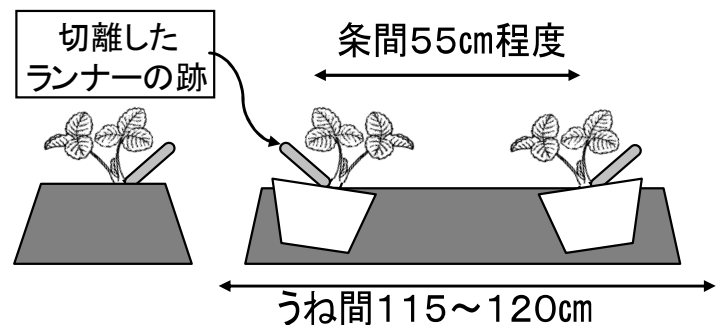
- 花芽分化促進のため、寒冷紗を被覆する。但し、肥料の残りが多い場合は、徒長しやすくなるので注意する。
- 例年より高温で推移しており、肥料が切れ気味のほ場が多くなっている。生育状況を見ながら、既に肥料が切れているほ場では液肥等で追肥を行う。
- 根張りが悪い(根傷み・根量不足)場合は、回復するまで葉面散布(メリット青500倍など)を2~3回行う。

定植

- 畝を作った後は、定植までビニル被覆(べたかけ)を行う。
- 早い作型ほど高温時の定植になるので、活着促進・根痛み防止のために定植前に寒冷紗を被覆し、地温を下げる。
- 内成りの場合、条間は55cmを目安にし、狭くならないように注意する。
- 株間は、土耕栽培で25cm、高設栽培で20~23cmを目安にする。
- 定植前には必ず花芽検鏡を行い、最適な花芽分化ステージになってから定植する。
- 深植えは、生育不良になりやすいため注意する。
- 果梗は、クラウンの傾いた方向に伸びやすいので、果実を成らせる方向に苗をやや傾けて定植する。
- 疫病予防のため、定植時に「リドミル粒剤2」の作条土壌混和を行う。

＜定植日と花芽分化程度の見方＞

定植日	花芽分化程度
9月10~14日	分化~ガク片形成
9月15~18日	分化~ガク片形成
9月19~22日	分化
9月23日~	肥厚後期



定植後の管理

● 寒冷紗被覆

- 定植後の活着促進のため、早朝に心葉から溢液が出るまで、7~10日間程度被覆を行う。

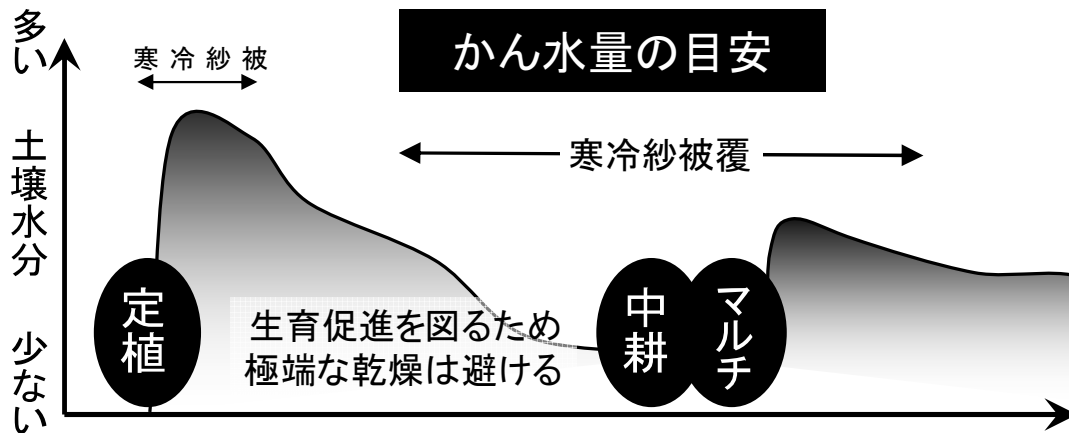
＜寒冷紗の種類と遮光率＞

種類	遮光率
シルバー寒冷紗109番	39%程度
黒寒冷紗600番	51%程度
黒寒冷紗610番	58%程度

(裏面につづく)

● かん水

- 定植直後は、活着まで畝の表面が乾燥しないように充分かん水を行う。
- 一次根の発生を促進するため、クラウン部が常に湿るように頭上からの散水を少量多回数で行う。



● 2番果房分化対策

作型によって2番果房の連続性が異なるため、各作型に応じた対策を行う。

◆ 早期作型の場合（株が旺盛になりやすく、2番果房が遅れやすい）

- ・基肥量の削減や速効性肥料の使用抑制で、活着後の肥効を抑える。
- ・追肥は、2番花房の花芽分化を確認してから行う。
- ・寒冷紗被覆を行う。

（被覆時期の目安：9月25日頃から10月20日頃まで）

- ・マルチ被覆後は、地温抑制のためマルチの裾を畝の肩まで上げておく。
- ・過湿にならないよう注意し、かん水は土壌水分を見ながら適宜行う。

【寒冷紗被覆時の注意点】

- ・ほ場が乾きにくくなるため、かん水の回数や量を調整する。
- ・天候によっては軟弱徒長しやすいため、通気性を確保し、「うどんこ病」の予防防除を徹底する。

◆ 普通ポットの場合（2番果房が続きやすい）

- ・十分にかん水を行い、活着・初期生育促進を図る。
- ・活着不良などで生育が悪い場合、葉面散布の実施や早めのマルチ被覆などを行い、生育促進に努める。

病害虫防除

害虫は発生初期の防除、病気は発生前の予防防除が重要である。

定植後の薬剤散布は、苗が活着してから始める。

● 炭そ病

- 発病した苗は育苗床から除去し、周辺の苗も罹病の可能性があるので出来るだけ使用しない。
- 定期的な予防防除を徹底する。

● うどんこ病

- 定植後からビニル被覆まで、定期的に予防防除を行う。
- 軟弱徒長気味に生育すると発病・拡大しやすくなり、寒冷紗を被覆した場合は、特に注意する。

● アブラムシ

- ほ場周辺の雑草を除去する。
- 発生初期からの防除を徹底する。

農薬名	希釈倍率	本剤の使用回数	使用時期
バリアード顆粒水和剤	2,000～ 4,000 倍	3回以内	収穫前日まで
チェス顆粒水和剤	3,000 倍	3回以内	収穫前日まで

● ハスモンヨトウ・オオタバコガ

- 発生初期の若齢幼虫時(体長1cm程度まで)の防除が重要である。

農薬名	希釈倍率	本剤の使用回数	使用時期
プレバソンフロアブル5	2,000 倍	2回以内	収穫前日まで
フェニックス顆粒水和剤	2,000～ 4,000 倍	2回以内	収穫前日まで

● ハダニ類

- 定植後の下葉除去後及びマルチ被覆直後は、特にしっかりと防除する。
- 天敵のチリカブリダニを使用する場合は、影響が長い農薬の使用を避ける。

農薬名	希釈倍率	本剤の使用回数	使用時期
マイトコーネフロアブル	1,000 倍	2回以内	収穫前日まで
コロマイト水和剤 ※刊ガブリダニ影響:7日	2,000 倍	2回以内	収穫前日まで

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!